

# 令和7年11月教育委員会定例会会議録

日時 令和7年11月27日（木）

午前10時30分開会

場所 波佐見町役場 第4会議室

出席者：森田教育長、山下委員、馬場委員、  
富木委員

事務局：林田次長

- ・ 出席者確認 松尾委員欠席

---

## 1. 会議録署名委員氏名

山下委員、富木委員で了承されました。

## 2. 前回会議録確認

## 3. 報告事項

### (1) 教育委員会

10・11月事業報告、及び11・12月予定について

### (2) 学校給食センター

10・11月事業報告、及び11・12月予定について

### (3) その他

## 【会議録】

## 3. 報告事項

## 5. その他

森田教育長

それでは、3の報告事項について、次長からお願いします。

林田次長

(1) 教育委員会に伴う10・11月事業報告、及び11・12月予定について別紙資料をお開きください。

【資料により説明】

林田次長

(2) 学校給食センターに伴う10・11月事業報告、及び11・12月予定について別紙資料をお開きください。

【資料により説明】

馬場委員 各小学校で行われている非行防止寸劇は、どのような方が、こういった内容で実施されているのでしょうか。

渡邊指導主事 こちらについては、更生保護女性会の方々が中心となって、もう長年取り進めていただいているものです。毎年、各小学校の4年生を対象に行っています。内容としては、非行防止、いじめはダメ、あるいは万引きはダメといったことを、寸劇を通して子供たちに伝えていくという取組をされています。

森田教育長 ほかにございませんか。

富木委員 12月8日、9日の定例議会一般質問の中では、教育委員会関係について何人の議員が質問されますか。

林田次長 今回、教育委員会の所管事項について質問されるのは3名となっております。議員名を申し上げますと、まず岡村達馬議員、田添議員、そして横山議員です。内容を申し上げますと、岡村議員が「波佐見町の学校教育における課題」について。また田添議員につきましては、行政上の服務監督に関し、令和7年9月25日に出された教育委員会関連の指針に伴う本町の取組について。次に横山議員ですが、これは「小学校の学級編成」について、主に統廃合等に関する内容となっております。一般質問の登壇者8名中3名が教育関係であり、順番も1番目、2番目、3番目と初日に行われます。そのほか、他部局の質問に関連して再質問の中で教育委員会に関わることが出てくる可能性はございます。

森田教育長 それでは、議題に入ります。ほかにございませんか。1番について提案をお願いします。

森田教育長 その他について提案をお願いします。

林田次長 その他の中で、前回10月にもお示ししました「波佐見町総合教育会議」についてです。11月末を中心に教育委員の皆様と調整し、候補日を挙げていただきましたが、町長との日程調整がつかず、11月中に開催することができませんでした。つきましては12月に改めて予定させていただき、もし12月も厳しいようであれば年明けに調整をさせていただきます。

森田教育長 総合教育会議は、今申しましたように町長の日程調整が難航し、11月に開催できませんでした。12月に行うとすれば、資料にある通り15日、25日、26日あたりしか空きがありません。定例会と併せて開催すれば

少し長丁場になるかもしれませんが、もし12月に開催するなら、25日または26日のいずれかに、総合教育会議と定例教育委員会を合わせた形で午前中に行いたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、25日を第一候補として町長側と調整いたします。12月の定例教育委員会も25日ということでもよろしく願いいたします。

#### 4. 議題

(1) 準用保護（就学援助）の認定について

(2) 持ち寄り議題について

森田教育長

次に4の議題に移ります。

(1) 準用保護（就学援助）の認定について、提案をお願いします。

林田次長

議題2(1)「準用保護就学援助の認定」についてですが、今回は申請がございませんでしたので、ご審議いただく案件はございません。

森田教育長

それでは、その他について意見交換に入ります。委員の皆様から、近況や子供たちの様子、保護者の状況など、気になることや情報を共有したい案件がありましたら、よろしく願いいたします。

馬場委員

最近感じていることですが、皆様は小学1、2年生のランドセルを持って見たことはありますか。ニュースや新聞でも取り上げられていますが、私も毎週、子供を園に連れて行ったり総合文化会館の教室に通わせたりする際に触れる機会があるのですが、とにかく重たい。タブレットが入り、さらに水筒も持っています。こんなに小さな子供がこれほどの重量を背負って歩き回っているのは、親御さんも大変だと思っているのですが、周囲から見ても相当な負担がかかっていると感じます。本やタブレットの扱いをどうにかできないのでしょうか。特に低学年ならタブレットを毎日持ち帰らせなくても、家で活用している様子もあまり見受けられません。週末になると給食着や図画工作の作品なども加わり、ランドセル以外にバッグも持っていて、ものすごい荷物になっています。学校に置いていけるものは置く「置き勉」など、もう少し軽くしてやる工夫ができないかと思っています。

森田教育長

ただいまの意見について、何かございますか。

渡邊指導主事

馬場委員がおっしゃる通り、ランドセルがぎゅうぎゅう詰めになっている子供を多く見かけます。タブレットについても、低学年は持ち帰る頻度は本来少ないはずですが、国語や算数などの教科書やノートがかなりの重

さになります。学校としてもできるだけ「置き勉」を推奨し、教室に置いて帰るケースを増やして考慮はしているのですが、家庭学習（宿題）のために持ち帰らざるを得ない教材もあります。小さな体で大きなランドセルを背負っている姿を見ると、学校としても極力持ち帰りを少なくしたいと考えています。週末の給食着や体操服などは衛生上のルールもあり持ち帰りますが、何か良い方法があればと思います。今後、デジタル教科書が普及すればタブレット一つに集約される方向へ向かいますが、現在の1年生にとっては非常に厳しい重量であるのが実情です。

山下委員

渡邊指導主事がおっしゃった通り、最近では軽減に向けた配慮もなされていると聞いています。挨拶運動の際、南地区の田ノ頭などの遠方から歩いてくる1年生が、万年橋の交差点で「きつかった」と座り込み、お茶を飲んで信号待ちをしている姿をよく見かけます。やはり月曜日は特に荷物が多いのだと感じます。先生方も教科書を置いて帰るよう心がけてくださっているとは思いますが、タブレット自体も重いですので、学校の方でさらなる配慮をしていただければと思います。

森田教育長

学校としても「置き勉」等の対策は進めているところです。先日、国から次の教科書の形態に関するアンケートが届きました。「紙媒体のみ」「紙とデジタルのハイブリッド」「デジタルのみ」の三択でしたが、将来的にはデジタルに一本化される方向でしょう。しかし現場、特に低学年においては、基礎学力（読み書き計算）の定着や思考力、心の育成には「手を動かし頭を動かす」紙の教材が有効だというデータもあり、先生方からも「低学年は紙の方がいい」という意見が多く出されました。今後の改定に伴い、波佐見町としては「低学年は紙を中心とし、高学年以上はハイブリッドが効果的」という現場の意見を国に伝えていく状況です。重量の問題については中学生も同様ですが、安全面からもさらなる工夫が必要です。週末の持ち物についても、本当に毎週全て持ち帰る必要があるのか、例えばシューズなどは2週に1回でもいいのではないかなど、学校と家庭の協力を得ながら検討していかなければならないと考えています。

山下委員

本日の長崎新聞に県の読書感想文コンクールの最優秀作品が掲載されていました。以前は「全員出しましょう」という雰囲気がありましたが、最近の波佐見町での出品状況はどうなっているのでしょうか。

渡邊指導主事

私が現場にいた頃は感想文・感想画ともに出品していました。感想画については図工の時間に全員で取り組んでいましたが、感想文については担任の裁量によるところもありました。現在は図書館で対象の本を案内するなど呼びかけはしていますが、全員強制という形ではなくなっているかもしれません。

森田教育長

補足します。感想画については図工のカリキュラムに「本を読んだ感想

を絵に描く」という内容があるため、全学年で取り組んでいます。以前は読書感想文も国語の教材に関連してほぼ全員が書いていましたが、コンクールのための指導や事務処理が教員の大きな負担（オーバーワーク）になっていた経緯があります。そのため、現在は「全員一斉」ではなく、夏休みの課題として案内したり、書きたいという子供の意欲を刺激したりする「自由参加」の形が主となっています。その中から代表作品を選考し、郡や県へ提出しています。この傾向はここ10～15年ほどで定着してきたものです。

馬場委員

もう一点、私の感想ですが、現在、教育委員会で行っている学校訪問についてです。年に1回、6月に全校を回り、後半の時期に2校ずつ訪問していますが、現状のやり方について少し思うところがあります。私たち委員は専門職ではありませんので、先生方の資料や指導技術に対して細かな所見を述べるのは難しい面があります。それよりも、この機会を利用して、先生方が今子供たちに対してどのような指導をされているのか、どんな問題点や保護者との課題を抱えているのかを直接聞ける場にできないでしょうか。校長・教頭先生だけでなく、先生方と集まって座談会形式で意見交換ができれば、波佐見町内の実情をもっと深く知ることができるのではないかと感じました。皆様はどう思われますか。

森田教育長

1回目の訪問は学校経営の紹介等が必要ですが、2回目の訪問が毎回同じパターンになっているという課題は私自身も感じていました。以前のように全員が研究授業を行う形式が難しくなっている今、馬場委員の提案された「意見交換会（座談会）」は非常に有意義だと思います。山下委員、富木委員はいかがでしょう。

山下委員

私も委員5年目になりますが、確かに同じパターンが繰り返されていると感じます。私たちから先生方に授業のアドバイスをすることは難しく、どうしても「整理整頓ができています」といった表面的な感想になりがちです。先生方の思いや困りごと、保護者の声などを引き出せるような訪問になれば、もっと先生方に寄り添った支援ができるのではないかと思います。

富木委員

以前も少しお話ししましたが、先生方も同じ立場（同僚）同士では話せても、外部からの意見を聞く機会は少ないものです。座談会形式で、ざっくばらんに状況を伺うことができれば、また違った対話ができるのではないのでしょうか。

森田教育長

委員の皆様は保護者や地域の代表であり、その視点で子供たちの様子や授業を見ること自体、学校にとっては非常に貴重な刺激となり、感謝の声も届いています。ですから、参観の意義は失われません。ただ2回とも同じ形式である必要はありませんので、今後は「研究授業の参観」と「座談会」を組み合わせるなど、令和8年度以降に向けて工夫・改善を研究させ

てください。校長会とも協議し、お互いにとってメリットのある形を新たに提案させていただきます。

富木委員

11月9日に中央小・東小で運動会が行われました。雨が心配されましたが、予定通り実施できて良かったです。10月下旬まで暑い日が続いたことを考えると、これからは11月頃の開催が時期として適しているのかもしれない。中央小の児童の最後の挨拶も、学年ごとの活動をしっかりとまとめて発表されており、感銘を受けました。

森田教育長

運動会の日程については、校長会でも議論しています。ちなみに卒業式については、中学校が3月10日、小学校が3月18日で行うことを確認しました。進路が概ね決まっている現状や自然災害等の予備日を考慮し、中学校は早めの設定となっています。来賓の案内については、自治会長様や民生委員の方々の負担（行事が続くこと）を考慮し、卒業式・入学式への積極的な案内は控える方向ですが、運動会についてはぜひ子供たちの様子を見ていただきたいということで、案内を継続する要望が出ています。今年の運動会は50周年記念行事等の兼ね合いで11月開催となりましたが、非常に良い時期だったと感じます。来年度以降ですが、中体連の開催日が令和8年度から日曜日開催がなくなり土曜日・平日開催となる予定です。それに伴い日程に余裕が出るため、来年度の小学校運動会は「5月24日」に開催し、今後は「5月第4日曜日」を原則として固定していく方針です。暑さの状況を見ながらですが、元に戻す形を考えています。

次に校長会の議事録についてです。教科書の形態については先ほど述べた通り、低学年は紙、中学年以降はハイブリッドが望ましいとの現場の意見です。英語教育についても意見交換をしました。小・中・高と英語を学びながら話せるようにならない日本の現状を踏まえ、文法中心の受験対策ではなく、コミュニケーション重視の「話せる英語教育」へシフトできるよう研究しています。また、12月には教育支援会議を開催し、支援学級等の判定を行います。学校サポーター（有償ボランティア）については、現在の謝金（時給500円）を800円に引き上げることで、地域の方々のさらなる協力を仰ぎたいと考えています。中央小では掲示物作成、南小では放課後の宿題見守りやウサギ小屋の世話など、地域の方に「やれる人が、やれる時に」関わっていただく形を広げていきます。

「学校だより」についても協議しました。中学校は全町に配布し、学校の思いを伝えてきましたが、自治会の負担も考慮する必要があります。「広報はさみ」の内容と重複する部分もあるため、内容の精査や一本化を含め検討していきます。

また、南小学校区の学童保育「おいでおいで」が、令和9年度以降の継続が困難との申し出がありました。建物の改修や新築を考えるなら来年度予算に関わります。校舎内への併設、周辺施設（農業改善センター等）の活用など、利便性と安全性を踏まえた方向性を今年度中に確認しなければなりません。利用児童数は増加傾向にあり、放課後の居場所づくりは町全

体の喫緊の課題です。

学力調査の結果についても厳しい意見が出されました。「なぜ波佐見町の学力が低いのか」をテーマに各校の研究主任と議論した際、一つの要因として「保護者の意識」が挙がりました。家庭学習の環境づくりや、学習への働きかけが不足しているのではないかという意見です。もちろん学校が責任を持って子供を変えていくのが大前提ですが、家庭の意識改革も並行して進める必要があります。ICT活用については、アプリ「ミライシード」等を有効活用し、基礎学力の定着を図ります。

環境整備では、村木地区のスクールバス利用について。現在、分校廃校に伴いバスやタクシーを運行していますが、PTAからは「距離や熱中症対策のため、全員を乗せてほしい」との要望があります。これを認めると他地区への影響も大きいため、慎重に研究すべき課題です。その他、ウォーターサーバーについても、水道水の鉄分濃度の調査結果に基づき、安全性を確保した上で、実態に合わせた適正な台数管理を行っていく予定です。

最後に、生徒指導上の問題についてです。機微な内容を含むため詳細は控えますが、最近「個性の尊重」という言葉が独り歩きしている側面があります。例えば、5年生の案件は、親に注意を促したところ「自分の責任でさせている。なぜいけないのか明確な理由を教えてください」という返答があったケースや、タブレットを持ち帰らせるから子供がスマホやネットに依存して会話がなくなるので持ち帰らせないでほしいという要望など、保護者への対応が非常に難しくなっています。価値観が多様化する中で、学校だけで解決できない問題が増えています。

馬場委員

こうした問題の背景には、PTA活動などの「まとまった活動」が減り、個人主義が強まっている時代の流れがあると感じます。以前は活動を通じて保護者同士の意思疎通が図れましたが、今は自分の意見のみを主張する傾向にあります。先日、社会教育の講演で「挨拶運動の前に、人と触れ合う接点を作ることが大切だ」というお話を聞きました。あえて「何もしない合宿（宿泊体験）」などを行い、子供たちが自由に集まり、そこへ地域の大人や高齢者も顔を出す。そうして「顔見知り」になれば、挨拶は自然と生まれます。保護者に対しても、まずは「接点を持つ」ことから始め、お互いを知る場を復活させることが、今の閉塞感を打破する一つの方法ではないでしょうか。

山下委員

実際、今の子育て世代のお母さんたちがどのような思いでいるのか、話す機会がないと分かりません。PTAの役員さんと私たち委員がざっくばらんに話せる場があれば、アドバイスもできますし、私たちも現状を学べます。保護者同士、あるいは地域と保護者がつながる機会を作ることが、先生方の負担軽減にもつながるのではないのでしょうか。

富木委員

「みんな違ってみんないい」という言葉を、自分勝手な主張と勘違いしている側面があるのかもしれませんが。かつては家庭内で祖父母などが「そ

んな格好で外に出るな」と躰けていたものですが、今はそれが「個性」としてアピールされてしまいます。まずは、そうした考え方を育む「環境」をどう整えるかが重要だと思います。

森田教育長

皆様、貴重な御意見をありがとうございます。大分県玖珠町のコミュニティ・スクールでは、地域の方々が「子供の学力や挨拶」を「自分事」として話し合い、学校へ提案しています。先生から言われるのではなく、地域や保護者同士で課題を意識化することが、解決への唯一の道かもしれません。昔はPTAの集まりにOB・OGが参加する文化もありましたが、そうした「アナログなつながり」を今の時代に合わせてどう再生させるかが鍵です。また、「迷惑をかけていない」という言葉についても、「人を不快にさせることは、一つの迷惑である」という日本人らしい価値観、相手を思いやる心を伝えていく必要があります。先ほどの案件も、「ありのままの姿の美しさ」や「他者への影響」をどう説得力を持って伝えるか。個性を尊重しつつも、自分勝手にならないための価値判断を、大人の出番として示していかなければなりません。本日いただいた「世代を超えて話し合える場づくり」の重要性を、今後の施策に活かしていきたいと思ます。

本日は予定した時間となりました。来月の定例会および総合教育会議については、12月25日を軸に調整いたします。会議録の修正がありましたらお知らせください。

森田教育長

ありがとうございました。

森田教育長

ほかにございませんか。それではないようですので、11月の教育委員会定例会は以上をもちまして終了したいと思います。

※次回定例会予定 総合教育会議との調整もあるため後日日程調整を行う。

令和7年11月27日教育委員会定例会会議録署名	
署名	山下 祐子
委員	高木 義典